



一気に涼しくなりましたね。

猛暑だったはずの夏がずいぶん前だったような気がします。

とにもかくにも、今年も夏が終わって秋が到来しました。

読書の秋、芸術の秋、食欲の秋、スポーツの秋、行楽の秋・・・。「秋」には「〇〇の秋」

といった表現がよく使われますが、皆さんが思い浮かべる秋はどんな秋ですか？

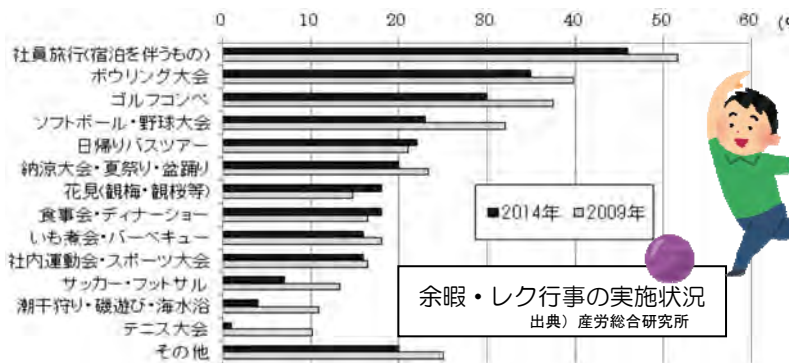
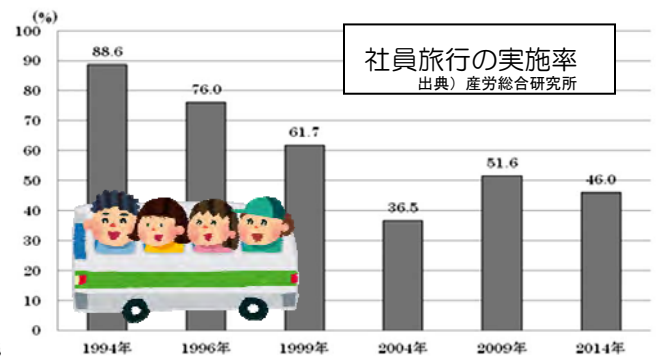
クリごはん
大好き
食欲の秋



秋は運動会の時期ですが、僕の前職の会社でも唯一レクリエーション行事として、秋に運動会がありました。

昨年、職場におけるレクリエーションについて、人事労務分野の情報機関である、「産労総合研究所」が同社会員企業向けに「社内イベント・社員旅行等に関する調査」を実施し、その結果を発表しました。

「社員旅行の実施率」の推移では、1990年代には9割近かったものの2004年調査では4割弱にまで一気に減少し、昨年の調査では46%の企業が社員旅行を実施し



ているという結果でした。

またレクリエーション行事の実施状況について2014年は2009年と比較して減少したものの、「社員旅行」、「ボウリング大会」、「ゴルフコンペ」、「ソフトボール大会」等が多いようです。

心理学者のアドラーは、「人間の悩みは、すべて『対人関係の悩み』である」と言い切ります。

僕も以前、労働基準監督署の相談員を務めていましたが、確かに、受けた職場の悩みやトラブルはまずもってコミュニケーションに起因していたように思います。

メールや携帯電話が当然の時代になり、顔をつきあわせて会話をする機会が減りました。受動喫煙防止法により、社内に設置する喫煙室の要件も一気に厳しくなり喫煙室を設置する会社も殆どなくなりました。喫煙する人にとっては、喫煙室はただ煙草を吸うだけではなく情報交換やコミュニケーションの場所でした。社内レクリエーションには、貴重な職場のコミュニケーションの促進という効果が間違いなくあります。ですから、もし皆さんの職場にそのような機会があるのなら、できるだけどうか積極的に参加して楽しんでほしいと思います。職場だけでは見えなかったものが、きっとありますから。(^_-) ☆

社内イベントやレクリエーション行事に積極的に参加するかどうかで、職場環境にも差が出てくるはずですよ。

8月の下旬のこと。不肖ながら関西在住の僕が幹事を務め、大学時代のサークルの同窓会を企画しました。約30年振りにおっさんばかり同窓生全員16人が京都に泊りがけで集まり、楽しいひと時を過ごしました。世間知らずの僕が18歳の時宮崎の田舎から知り合いもいない京都に一人出てきて、いつの間にやら楽しい学生生活を過ごせたのは間違いなくこの連中のおかげでした。そして、今の僕があるのです。

携帯もメールもない時代。僕も含めて下宿生が多かったので、何かあればすぐ誰かの下宿に直接押しかけて集まりました。他愛もないことでしょっちゅう朝まで議論しました。秋の夜長は僕たちにとって最高でした。16人の同窓生のうち、今中学の教師になっている友人が3人います。

彼らは、学校のトラブルの8割が便利なコミュニケーションツールであるはずのLINE絡みだと言います。改めて思えば僕らの時代にはLINEは当然ありませんでしたが、それでもずっと豊かなコミュニケーションがありました。むしろLINEや携帯が無かったのが良かったのかもしれない。

ちなみに、今回僕が考えた仲間への同窓会の案内状は、こんな書き出しにしました。

「あ、キミたちがいて僕がいる。 From チャーリー柿」

